

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科
数学 B	必修	2	2	普通科

科目の概要	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
教材名	教科書	数学 B(数研出版)		
	副教材	4 S T E P 数学Ⅱ + B(数研出版)		
担当者		金田 和実・高橋 美香子・佐藤 樹也・関口 紫乃風		
学習到達目標		数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数列、統計的な推測について論理的に考察する力，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習方法		各単元ごとに、以下の要領を基本に、自立的、積極的に予習・授業・復習に取り組む。 ①予 習：教科書を読みどんな内容を勉強するか把握し、理解できないところを確認する。 ②授 業：理解できなかった部分をしっかりと聞き、演習する。 ③復 習：傍用問題集で演習し習熟する。 ④テスト：各単元ごとにテストを実施しそれに向けて復習し学習内容を定着する。		
評価基準と評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	課題の取り組み状況 授業に対する姿勢 テストに向けての取り組み 自己学習調整
	A	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100
	B	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9
	C	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4	第1章 数列とその和 第1節 数列とその和 4. 和の記号 Σ 5. 階差数列 6. いろいろな数列の和 研究 問題	等差数列，等比数列などの簡単な数列について，一般項や第 n 項までの和を求めたり，記号 Σ の意味を理解してそれを用いたりできるようにするとともに，事象から離散的な変化を見いだし，それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する力を養う。	3 3 4	前期中間考査 講習Ⅰ期 夏期講習
5	第2節 数学的帰納法 1. 漸化式と数列 2. 数学的帰納法 問題 6月から10月まで数学C(ベクトル)	数列の考え方をもとにして，漸化式と数学的帰納法について理解できるようにするとともに，事象の再帰的な関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，数列の考えを問題解決に活用する力を養う。更に，自然数の性質などを見いだし，それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに，他の証明方法と比較して多面的に考察する力を養う。	4 6	
11	第2章 統計的な推測 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の変換 4. 確率変数の和と期待値 5. 独立な確率変数と期待値・分散 6. 二項分布	第1節では確率分布を扱う。数Aの内容を踏まえ、偶然現象の数学的表現である確率変数と、それが従う確率分布について基本的な性質や特徴を取り上げる。更に確率分布の中で基本的なものとして、二項分布と正規分布を取り扱う。	1 3 1 2 4 2	
12	7. 正規分布 8. 母集団と標本 9. 標本平均とその分布 10. 推定 11. 仮説検定	第2節では統計的な分布を扱う。ある集団から得られた標本を用いて、その集団がもつ特性やメカニズムを数学的に処理する力を養う。	5 2 3 3 3	
1	総復習と入試問題	大学入試問題を演習	6	
2	総復習と入試問題		10	
3	総復習と入試問題		5	
			計 70	
				後期期末考査 冬期講習 講習Ⅳ期 講習Ⅴ期(春期講習)

